



平成30年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成30年7月～8月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は平年並みか下回る。カタクチイワシ(小羽から大羽)は平年を下回る。

(2) 海域別：

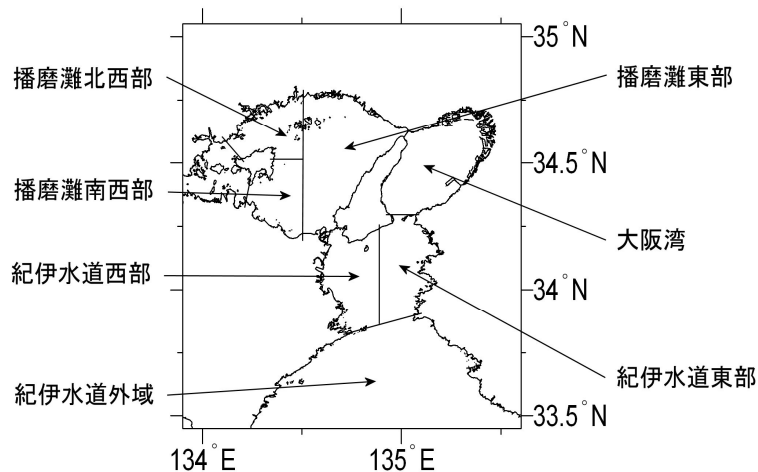
紀伊水道東部のシラスは好漁であった前年、平年を下回る。

紀伊水道西部のシラスは好漁であった前年を下回り、平年並み。

大阪湾・播磨灘南西部・播磨灘北西部のシラスは不漁であった前年を下回る。

播磨灘東部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年並み。

大阪湾のカタクチイワシは不漁であった前年を下回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所

担当：業務推進部 神山、廣瀬

資源生産部 崎山、河野

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

平成30年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2018年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部では好漁であった2017年、平年を下回る。

紀伊水道西部では好漁であった2017年を下回り、平年並み。

大阪湾・播磨灘南西部・播磨灘北西部では不漁であった2017年を下回る。

播磨灘東部では不漁であった2017年を上回り、平年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とした（図1～図3）。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では不漁であった2017年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とした（図4）。

特に断りがない場合、シラス、カタクチイワシのいずれも2008年～2017年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2018年4月～6月）及び今後の見通し（2018年7月～8月）についての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の192%、平年の188%であったが、6月中旬から漁獲量が減少している。紀伊水道外域東部では5月の漁獲量は前年の224%、平年の173%であったが、5月中旬から漁獲量が減少した。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の128%、平年の170%であった。

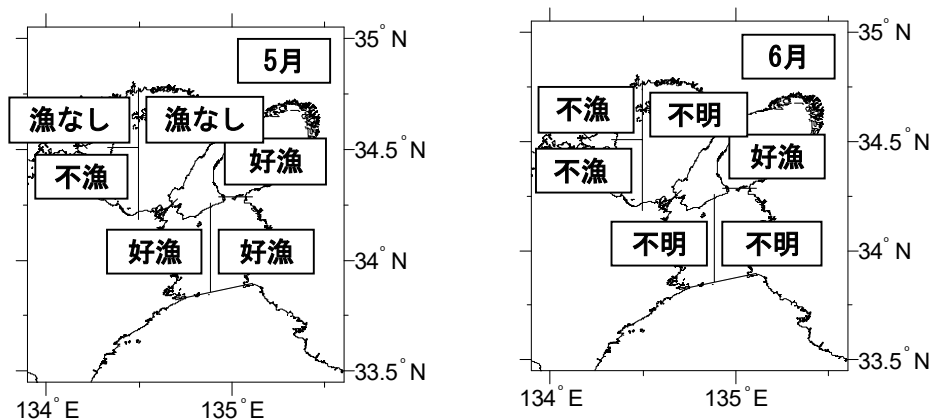
大阪湾（大阪府）では2018年の漁は前年より約3週間遅い、5月中旬から本格的に始まった。5月下旬以降、6月上旬まで好調に推移している。

大阪湾（兵庫県）では2018年の漁は前年より19日遅い5月14日から始まった。5月の漁獲量は前年の111%、平年の116%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2018年の漁は前年より13日遅い6月1日から始まり、5月の漁獲量はなかった。

播磨灘南西部（香川県側）では2018年の漁は前年と同じ5月20日から始まった。5月下旬から6月上旬にかけてややまとまった漁獲があったものの、その後が続かず、6月12日現在、低調に推移している。

播磨灘北西部（岡山県側）では2018年の漁は前年より4日遅い6月5日から始まった。6月の漁獲量は18日現在で前年の30%、平年（2009年～2017年の平均値）の50%である。



2018年5月～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域の東側では4月は前年の229%、平年の3%であった。紀伊水道東部では4月は前年の7%、平年の12%であった。2018年5月以降の状況は不明である。

大阪湾では5月は前年の73%、平年の116%、6月は前年の37%、平年の27%であった。

播磨灘では6月は前年の2%、平年の3%であった(図5)。播磨灘東部では6月は前年の8%、平年の3%、播磨灘北西部では前年の73%、平年の10%であり、播磨灘南西部ではカタクチイワシ卵は採集されなかった(前年3398個体/m²、平年762個体/m²)。

(3) 黒潮流路の現況と今後の予測

6月14日現在、黒潮は大蛇行流路で推移しており、都井岬沖と足摺岬沖でやや離岸、室戸岬沖と潮岬沖でかなり離岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システムFRA-ROMSの予測結果を併せて考慮すると、紀伊水道沖の黒潮は6月後半から8月まで、離岸傾向で推移すると予測される。

(4) 今後の見通し

シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。本漁期に黒潮は離岸傾向で推移すると予測されている。また紀伊水道東部及び紀伊水道外域東部における漁況の推移と4月の産卵量から、外海発生群の来遊は減少していると推察される。大阪湾での6月の産卵量は5月より減少しており、6月は2017年、平年を大きく下回っている。内海発生群の今後の漁獲もあまり見込めないことから、好漁であった2017年、平年を下回ると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7月~8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘(徳島県海域)の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘(徳島県海域)よりも紀伊水道の影響が大きい(図6)。紀伊水道西部の水温は2017年並み(-0.5℃以上、+0.5℃以下)で平年より低め(-1.5℃以上、-1.0℃未満)、播磨灘(徳島県海域)では2017年、平年並み(-0.5℃以上、+0.5℃以下)であった。外海からの輸送条件は悪く、大阪湾や播磨灘での産卵量は少ないが、紀伊水道西部での水温条件がよいことから、好漁であった2017年を下回り、平年並みと予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。黒潮は離岸傾向が続くと予測されていることや紀伊水道外域東部における漁況の推移から、今後の外海発生群の漁獲はあまり見込めない。また大阪湾での5月の産卵量は平年を上回ったが、6月は2017年、平年を下回っていることから、不漁であった2017年を下回ると考えられる。

播磨灘東部では内海発生群が漁の主体であり、6月の水温が低いほど7月~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。また明瞭でないものの、播磨灘全体の6月の産卵量が多いほど7月~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。播磨灘全体での6月の産卵量は2017年、平年を下回っているが(図5)、水温は2017年より低めで平年並みであることから、不漁であった2017年を上回り、平年並みと予測される(図8)。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。6月中旬までの漁は低調であり、6月の卵仔魚の出現状況も2017年、平年を大きく下回っていることから、不漁であった2017年を下回ると考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。周辺海域の漁況や卵仔魚の出現状況から、不漁であった2017年を下回ると考えられる。

カタクチイワシ(小羽から大羽)

大阪湾では漁期当初に2017年発生1歳魚、その後は2018年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚

が小・中羽として漁獲される。大阪湾に滞留している1歳魚は2017年より少ないと考えられる。また2018年の春シラス漁では5月下旬から6月上旬にかけて好調であったものの、外海発生群の来遊量は2017年を下回ったと考えられることから、不漁であった2017年を下回ると考えられる。

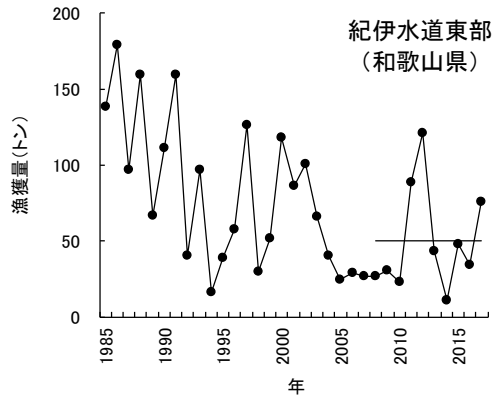
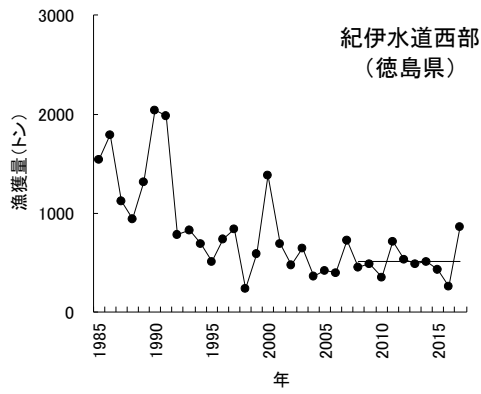


図1 紀伊水道の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

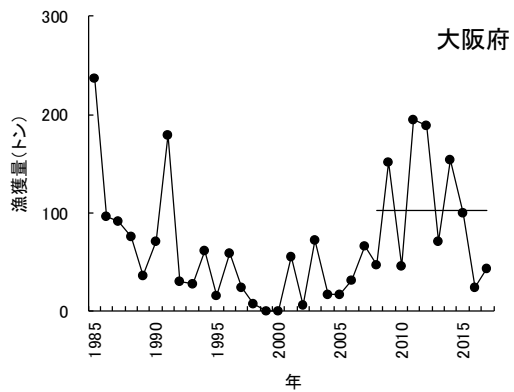
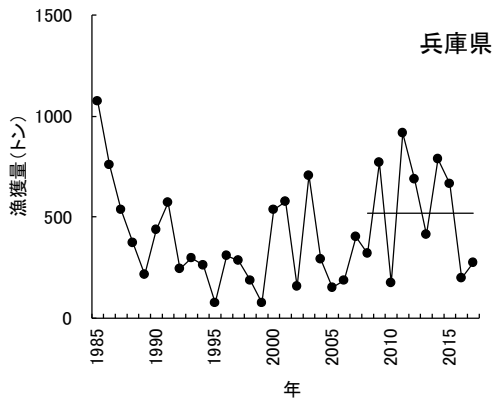


図2 大阪湾の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

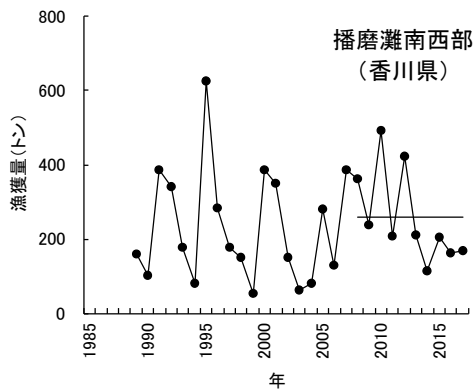
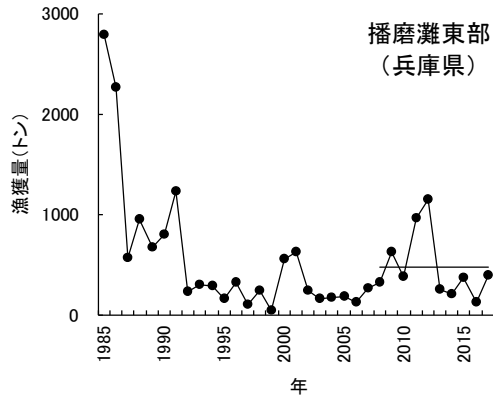
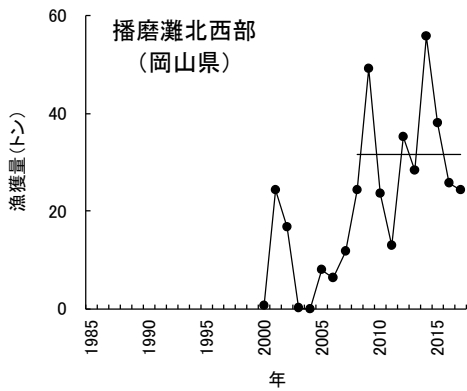


図3 播磨灘北西部の標本船、東部及び南西部の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

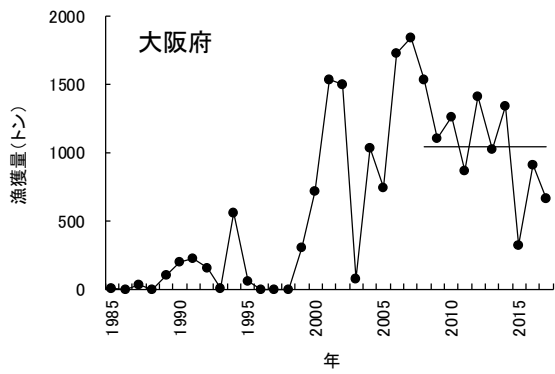


図4 大阪湾の標本船における7月～8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値）

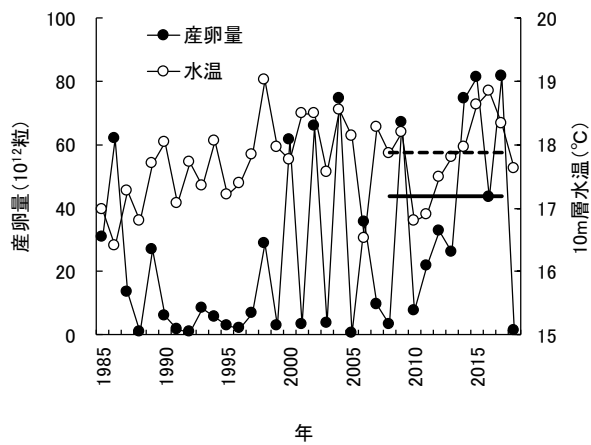


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値）

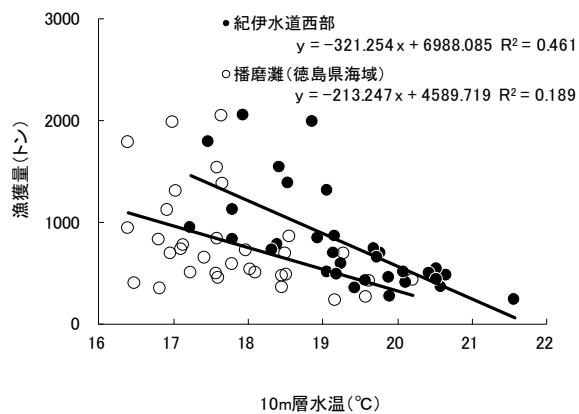


図6 紀伊水道西部及び播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

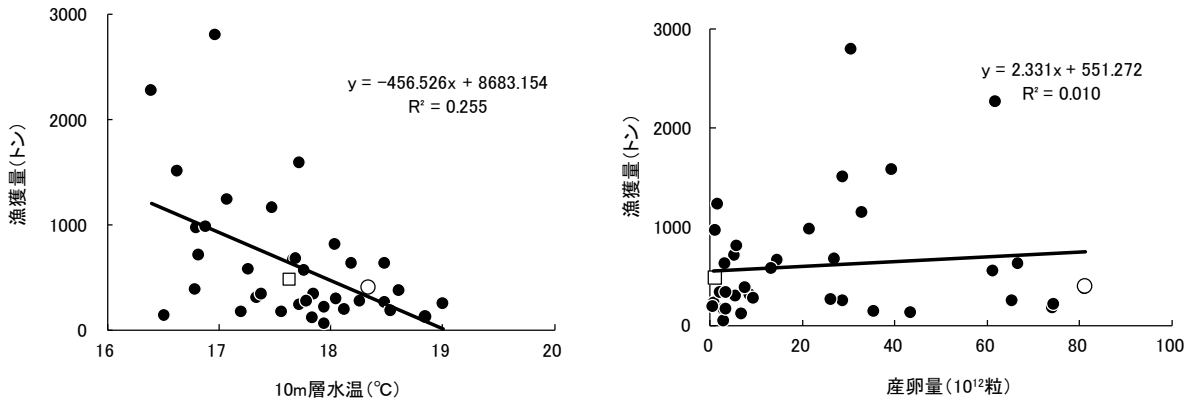


図7 播磨灘における6月の10m層水温及び6月の産卵量と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係
 使用したデータは1981年～2017年、○は2017年漁獲量、□は2018年予測値（2018年予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、必ずしも両図の回帰直線上にない）

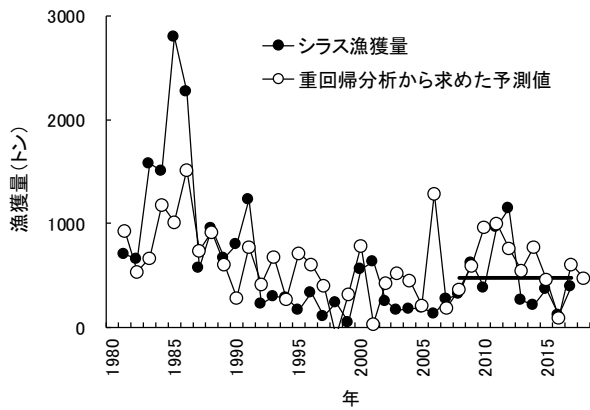


図8 播磨灘東部の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---